令和 8 年度第 1 回池田市地域公共交通会議

日時：令和 8 年 9 月 11 日（金）14:00～15:15

場所：池田市役所 7 階会議室

参加：

学識経験者

新田 保次　大阪大学名誉教授

北川 博巳　近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻准教授

国土交通省（道路管理者）

森本 芳文　国土交通省 大阪国道事務所 地域調整課課長

近畿運輸局

中野 幸太　近畿運輸局 大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送部門）

田中 郁代　近畿運輸局 大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画部門）

大阪府（道路管理者）

堀口 直人　大阪府 池田土木事務所参事兼地域支援・企画課長

警察

福井 正次　池田警察署 交通課課長代理（代理出席）

交通事業者

片山 祐己　阪急電鉄株式会社 沿線まちづくり推進部課長（代理出席）

野津 俊明　阪急バス株式会社 自動車事業本部 営業企画部部長

黒田 唯雄　一般社団法人 大阪タクシー協会常務理事

花田 崇昭　阪急タクシー株式会社営業部 営業企画室 兼 経営企画室部 経営企画室 室長

園田 修　　阪急タクシー労働組合書記長

市民

栃尾 成一　池田市友愛クラブ連合会会長

鶴長 旭　　池田市社会福祉協議会事務局長

森田 茂　　池田市身体障害者福祉会副会長

池田市

水越 英樹　池田市 総合政策部長

綿谷 憲司　池田市 福祉部長

塩川 英樹　池田市 都市整備部長

内容：

１．開会

新田会長：皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。本日は新たな計画についての議論となる。これまでは地域公共交通計画を主に議論していたが、今回は自転車関連の計画もセットで入ってくること。その点も意識しながら、忌憚のないご意見をいただきたい。

２．議題

（１）報告事項

①イベント MM について

事務局：（イベント MM の実施結果について報告）

北川副会長：「イベント時のバスの増発があればもっと良かった」という意見があるが、逆に言えば、それだけバスが利用されていたということだと思う。我々も学会やイベントの開催時に、事前にバスの増発をお願いすると対応していただけるケースがあるが、このようなイベント時の増発は実際には難しいのか。早い段階から相談すれば対応しやすいのか、あるいは社内で説明できるようなデータがあれば検討しやすいのか、そのあたりの感触を伺いたい。今後の公共交通の活性化という観点からも重要な話ではないかと思う。

野津委員：今回のように、バス利用の促進につながるイベントはありがたい。今回のイベントは 2 日間で約 600 人、1 日当たり約 300 人の利用であり、通常の土日の利用状況を踏まえると、極端に混雑して乗車できない状況には至っていなかったのではないかと思う。今後、増発が必要となる規模のイベントについては、事前に相談いただければと思う。

一方で、以前と比べて運転士の手配等の面から増発対応のハードルは高くなっており、従来ほど柔軟に増便することが難しくなっているのが実情である。

園田委員：参加者がどのあたりに住んでいるのか、どのバス停を利用されたのか、などといったデータはあるか。

事務局：アンケートでは、参加者の詳細な居住地や乗車したバス停までは確認しておらず、詳細なデータは取得できていない。次回以降は、より詳細な利用実態を把握できるよう、アンケート内容等について検討したい。

田中委員：アンケートで「自動車の駐車場が少ないから」という回答があるが、実際にイベント当日は駐車場があふれていたという状況があったのか。

事務局：前回開催時は駐車場が混雑する状況があったが、今回、そうした状況も考慮して案内を行っていたため、大きな混雑はなかった。

北川副会長：全体として、モビリティ・マネジメントによって行動変容につながった点は評価できる。バスへの転換だけでなく、今回新たに利用者を誘発した部分もあると考えられ、今回の特別景品交換の取組は、行動変容に効果があったと感じている。今回はイベント時ということだが、これを平常時の利用にどうつなげていくかが重要な課題になると思う。また、交換券の配布数に対して景品交換数が半分程度となっているが、何か理由はあるのか。

事務局：具体的な理由までは分からないが、会場の規模も大きかったため、会場に入った後、そのままイベントに紛れて交換ブースまで来られなかった方もいたのではないかと思う。交換ブースの案内はなるべく大きく表示していたが、そのあたりは今後の課題と考えている。

北川副会長：交換券はバス利用者に配布されていたということか。先着 500 名なので、交換されずに余ったものがあるのではないかと推察される。

（２）協議事項

①令和 8 年度事業・予算計画について

事務局：（協議資料 1-A、1-B について説明）

（意見なし）

②計画のアップデートについて

事務局：（協議資料 2-A、2-B について説明）

花田委員：今回の説明を聞き、まちづくりや地域資源との連携まで視野に入れた、大変意欲的な計画であると感じた。タクシー業界においても、人口減少や高齢化、運転者不足が進む中で、行政と課題認識を共有しているところである。

一方で、本日説明のあった「交通まちづくり計画（案）」では、新たなモビリティや鉄道・バスの活用については多く触れられているものの、地域の移動を支えているタクシーを今後どのように活用していくかという視点がやや見えにくいように感じた。その点について、市の考えを伺いたい。

事務局：タクシーについても重要な交通手段と認識している。特に、ドア・ツー・ドアで移動できる、きめ細かな移動手段として重要な役割を担っていると考えている。今回は第 1 回であり、まだ方針レベルの議論であるが、今後、具体的な施策を整理する中で、タクシーの役割についても位置付けていきたい。

花田委員：当方としても、従来どおりのタクシーサービスのみで十分とは考えていない。料金体系の分かりにくさや補助制度との関係など、計画へ位置付けるうえで課題があることは承知しているが、地域ニーズに応じてタクシーも変化していく必要があると考えている。

また、パーソナルモビリティやシェアサイクルは、ラストワンマイルを補完する有効な移動手段であると認識している。

一方で、タクシーは単なるラストワンマイルにとどまらず、鉄道やバスといった基幹交通を補完しながら、病院や商業施設など地域拠点間を結ぶ役割を担う交通手段でもあると考えている。そのため、タクシーについても将来に向けた重要な地域交通の一つとして、本計画の中で適切に位置付け、整理いただきたい。

園田委員：五月丘などでは、タクシーが配置されていることで助かっている方が多くいると実感している。これまでの調査結果なども踏まえて検討していただきたい。

もう一点、自転車についてお伺いしたい。青矢羽根などの自転車ネットワーク整備が進む一方、バス停やタクシー乗り場との関係で、バスやタクシーが自転車走行空間上で停車する場合の安全面が課題となる。自転車利用を促進するのであれば、交通安全の観点から、これらの関係についても計画の中で整理していただきたい。

事務局：自転車活用推進計画の見直しと合わせて、自転車ネットワーク計画についても整理を進めている。第 2 回では自転車走行環境の考え方も示す予定であり、交通安全の観点を踏まえて自転車ネットワークのあり方を整理していきたい。

新田会長：自転車活用推進計画と自転車ネットワーク計画をセットで進めることになるが、青矢羽根などの整備が進む一方、路上駐車・停車やバス停、タクシー乗り場との関係については、まだ十分に整理できていない。これらの整合をどのように取るかは難しい課題であり、引き続

き検討していただきたい。

田中委員：今回の計画が「守り」と「攻め」という分かりやすい形で整理された点は非常に良いと思う。一方、現行計画で位置付けられていたドライバー不足への対応や、先ほど議論されたタクシー活用については、今回の資料では具体施策としてまだ見えていない。これらは今後の施策レベルの検討の中で具体化されるという理解でよいか。

事務局：そのとおりである。前回計画策定時はコロナ禍であり、その後、社会情勢も大きく変化している。ドライバー不足やタクシー活用も含め、社会情勢の変化を踏まえて改めて検討していく。

堀口委員：今回の計画は、方針がきれいに整理されており分かりやすい一方で、今後の計画策定にあたっては、事業者の状況や公共交通の利用状況、自転車利用の状況など、現状把握をもう少し詳しく示した方がよいと考える。また、サービス提供者側の状況だけでなく、利用者側のニーズなども含めて整理いただけると、計画の背景がより分かりやすくなると考える。

事務局：関連するデータについても整理を進めており、今後示していきたい。

新田会長：前回計画でも現状を詳しく整理しており、今回も利用者数や交通事業者の状況が経年的にどう変化しているかといった基礎データは重要である。今回はまず大きな柱と方針を示しているが、今後具体化する中で、現状についても詳しく示していく必要がある。利用者ニーズに関する指摘についてはどうか。

事務局：全域ではないが、市域の南部エリアなどバス利用の少ないエリアで、地域に意見を聞きながら課題の洗い出しをしているなど、地域の声を拾っていこうとはしている。

北川副会長：今後は 75 歳以上の人口が増えてくるなど、人口構成の変化によってよりきめ細かな検討が必要になってくると思う。自転車についても、ユーザの環境や移動ニーズも変化してくる中で、シェアサイクルや新しいタイプの自転車等、多様な商品・サービスが出てくる。そういう意味で、これから変化していくユーザに対してどのように選択肢を広げていくかが重要になってくることから、そうした変化に対応して推進していく体制をどう作っていくのか、という観点についても盛り込んでいってよいのではないか。

新田会長：重要な点のご指摘である。人口動態の変化によって移動の質も変化することを踏まえ、今後具体的な内容を検討していく必要がある。

新田会長：計画体系としては、従来の地域公共交通計画をベースに、新たな社会情勢や地域状況を踏まえながら充実させていくこととなる。各論としては、タクシーの記述がやや弱いため、データも含めて充実させる必要がある。自転車についても、シェアサイクルの普及に加え、パーソナルモビリティなど新たな移動手段も含めて検討していく必要がある。75 歳以上の高齢者が増加する中では、パーソナルモビリティや乗合タクシーへの需要も想定されるため、需要だけでなく、今後供給される新たな交通モードについても考えていく必要がある。

さらに、自動運転については、池田市でもこれまで実験的な取組が行われていることから、今後の技術動向を踏まえ、交通に関する地域資源として活用できる可能性についても検討してほしい。

人口 10 万人の維持については、以前のデータでは 2032 年頃に 10 万人を下回る推計だったように思うので、今後の人口の見通しについて確認したい。地域によって年齢構成も異なるた

め、地域別の人口動態についても整理してほしい。

事務局：人口については、以前出ていた予測より、ややなだらかな人口減少になるのではないかと考えている。

新田会長：現時点では計画の大きな方向性を変更するほどの状況ではないと考える。今回の協議では多くの意見が出されたため、内容を整理した上で、今後の議論に反映してほしい。

３．その他

事務局：現在取り組んでいる事項について、2 件の国の補助事業の採択を報告させていただく。まず、9 月 2 日付で「リ・デザイン全面展開プロジェクト」が採択された。KDDI の携帯電話由来の人流データを活用して市民の日常的な移動実態を分析し、計画見直しに反映していきたい。

次に、「交通空白解消プロジェクト」第 2 弾として、上限 4,000 万円規模の「池田市伏尾台をモデルとした官民共創型モビリティ運行による団地再生プロジェクト」も採択された。こちらは「ハッピーローソンタウン（FUSHIO TERRACE)」を拠点とし、データを用いながら伏尾台や国道 423 号沿線の交通課題への対応を検討していく。 こうした事業を通じて地域に適した持続可能な交通体系を検討し、その成果を地域公共交通計画の見直しにも反映していきたい。

新田会長：2 つの事業とも全国的に先進的な取組であり、今回の内容はこの計画にも反映されるのだと思う。また、次回あるいは次々回の会議で、状況が分かれば報告をお願いしたい。

４. 閉会

事務局：次回の開催は 11 月中旬から 12 月上旬を考えており、改めて日程調整のご連絡をさせていただく。

以上